

「119番通報の高度化」

岳北消防本部

平田 一矢

心肺停止状態になった方に対し、近くに居合わせた人が行う救命手当には、「119番通報をする」「AEDを準備し使用する」「心肺蘇生法を実施する」この3つの手順があります。既にAEDという言葉は一般的になり、多くの施設等で設置が進んでいます。心肺蘇生法についても、消防本部のみならず、多くの機関で教育が実施され、統計的にもバイスタンダーCPRの実施率が向上しています。

私は、ふと疑問に感じるがありました。「なぜ119番通報は昔と変わらず、音声のみを使用するのだろうか。」と。119番通報時に、音声だけでなく、動画を見たり情報共有に活用することで、より効果的になるのではないのでしょうか。

そこで私は次のことを提案します。

スマートフォンから119番通報をした際に、様々な機能を選択できる画面が自動で立ち上がるシステムです。

具体的には、スマートフォンで119を押すと基本的な通話に加え、画面上には3つのアイコンが表示されます。そこを選択すると、該当する内容の画面に切替るといふものです。アイコンの種類は、「心肺蘇生法の動画再生」「AEDの設置位置表示」「内蔵カメラの起動」の3つです。心肺蘇生法の動画再生については、目で見て耳で聞きながら心肺蘇生法を実施できるため、より有効な救命手当が期待できますし、心肺蘇生法を知らない人でも効果的な実施が可能となります。AEDの設置位置表示については、直近にあるAEDの場所を表示する機能に加え、そこを往復するためのナビゲーション機能を活用することで、外出先で土地勘がない場合でも早期除細動に繋げることが出来ます。また内蔵カメラを起動させることで、周囲の状況や傷病者の状況が動画として消防側へ送信されるため、直ぐに正確な状況判断が可能となります。

そして、この機能を活用することにより、心肺蘇生法の口頭指導の簡略化が望め、また動画を共有することで正確な状況判断から、出動体制の早期構築や口頭指導の正確性の向上に繋げることができ、我々消防側にも利点があります。

現在、心肺蘇生法等のアプリはいくつか発表されておりますが、インストールは個人の判断となっているため、いざという時に確実な使用は望めません。何より、通報と同時に使用することは困難です。

私の提案は、119 番通報に合わせ自動で立ち上がり、スマートフォンからの通報であれば、必ず誰でも活用できるようにするものです。

2016 年の総務省のデータでは、国民の 56.8%に普及されているスマートフォン。日常生活では動画を見たり、地図アプリで場所を調べナビゲーションしたりと、多岐に渡る使用方法があります。私は、日々進化するスマートフォンの性能を最大限に活かし、より分かりやすく、有効な救命手当が必ずできると考えます。

救命講習会が各地で開催され、事前に応急手当を学んでいる方は年々増えていますが、実際の現場で、まさに「その時」に、講習会と同じ内容を確認できたらどれ程心強いでしょうか。

自信がなくて、やり方がわからなくて、土地勘がなくて、そんな理由で大切な人の命を失わないように……。そして、バイスタンダー CPR の質、実施率が向上し、多くの命が助かるように！